

ございます。冊子にして、しおりでお配りしておりますが、非常に制度が複雑・多岐でございます。また、ホームページでも公開しておりますが、不明な点があれば市役所のほうで、またご相談させていただきたいと思いますので、ぜひ必要な方はご活用いただきたいと思います。とっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

今回、相談を受けた方、特に本当に赤ちゃんとか小さなお子様で、バギーカーにいろんなまた装置とかついたりという特殊なバギーカーらしいんですね。そういった支援をぜひお願いしたいんですが、その辺大丈夫でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合福祉事務所長。〔福祉事務所長 川合三喜八君登壇〕

○福祉事務所長（川合三喜八君）

お答えいたします。

生まれたばかりの障害をお持ちのお子さんにつきましては、やはりまだ障害が固定してないということで、障害者手帳が取得できない状況であります。そういった方につきましても、やはり県のほうで認定があれば、小児慢性特定児童ということで、そういったバギーカーの給付も行っておりますし、手帳が取得できれば補装具ということで一定の基準額ございますが、その範囲の中で、基本的には所得によって補助が異なる部分があるんですが、個人負担1割でご購入いただいておりますので、そういった制度もご活用いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

すみません、私の勉強不足なところありました。でもぜひ市民にわかりやすいサービスをお願いいたします。

終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本です。

今回、平成31年度全国学力・学習状況調査の結果についてをお伺いいたします。

平成31年度全国学力・学習状況調査の結果が、この8月の教育委員会定例会で報告されました。その結果と今後の課題についてお伺いいたします。

- (1) 今年度に行われた調査は、前年度の調査方法から一部変更されていると思います。その違いは何でしょうか。
- (2) 調査方法に変更があったものの、前年度等の比較で全国平均に比べて上回る結果となった項目、逆に下回った項目は何でしょうか。
- (3) 上回る結果となった要因は何と考えているのでしょうか。また下回った要因を何と考えているのでしょうか。
- (4) 学力向上及び学習習慣の定着などに向けて、教育委員会として今後の取り組むべき施策をどう考えているのでしょうか。

2番、6月に行われた防災避難訓練の課題について。

今年も6月23日に地区ごとに防災避難訓練が実施されております。現在の地球温暖化で、全国どこでも激しい降雨が起こってもおかしくない状況と考えられます。そこで特に水害に関する今後の防災及び避難訓練について伺います。

- (1) 過去、市内で発生した水害の中で最も大きいと思われる平成7年7月11日の水害で、平岩地区では1時間雨量が50ミリ、降り始めから485ミリと記録されています。どの程度の降雨量が危険と考えているのでしょうか。
- (2) 「糸魚川市地域防災計画資料編」に「土石流危険渓流」220カ所、「地すべり危険箇所」208カ所、「急傾斜地崩壊危険箇所」135カ所、「山地に起因する災害危険箇所」などが記載されております。そこには人家戸数も記載されています。その戸数は地域の戸数よりも多いような地域の戸数のように思われますが、「土砂災害ハザードマップ」などに記載された崖崩れ・地すべりの区域内の戸数と一致するのでしょうか。
- (3) 現在の避難訓練は、多くの人たちの参加を大きな目標として実施しているものと思われます。しかし、避難訓練は、本当に危険な箇所にある家屋の方がどれほど参加しているのでしょうか。

ことしの鹿児島での避難勧告でも、0.6%の人しか避難が行われなかったことがあった。この点をどのように考えているのでしょうか。

多くの市民は、避難とは避難所に行くことだと勘違いをしているように思われます。昨年、九州で妊婦の人が避難所に行ったところ、満員で別の避難所へと言われ、行き場所がなかったとの報道もあり、避難所の問題点も指摘されております。

降雨による水害は時間とともにあらわれてくる。現在の気象予報ではかなりの確率で当たっております。そこで雨が降りだす前の避難、いわゆる事前避難といいます。それも公が設置する避難所ではなく、家族や知り合いなどに避難する（身内避難）として取り入れてはどうでしょうか。

避難訓練も今までどおりのほかに、危険な家屋に重点を置いた方法で行うことも必要と考えるのでしょうか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

2 番目の 1 点目につきましては、市内の雨量観測所において時間雨量 40 ミリ、累計雨量 140 ミリを超えた値が警戒値となっておりますが、土砂災害については、雨が降り続く時間や地形の形状等で危険度が違うため、一概に何ミリの降雨量で危険という判断はできないと考えております。

2 点目につきましては、土石流危険渓流等の土砂災害危険箇所は、土砂災害への備えや警戒避難に役立てていただきたいことを目的に調査いたしましたものでありまして、土砂災害ハザードマップの区域は、土砂災害による生命、または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域を示したものであるため、一致いたしておりません。

3 点目につきましては、避難勧告が出て人も自分には不都合な情報は無視し、自分は大丈夫だ。まだ安全だと思い込む心理状態が大きく働いたものと認識いたしております。

身内避難につきましては、有効な避難方法の一つと考え、出前講座等で周知いたしております。

避難訓練につきましては、ハザードマップを活用した訓練を総合防災訓練等に取り入れていきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長から答弁いたしますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

山本議員の 1 番目のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、知識と活用を一体的に問う調査問題への変更や中学校での英語調査の導入等の変更がありました。

2 点目と 3 点目につきましては、小中学校とも、国語が全国平均を上回り、算数・数学及び英語は全国平均を下回りました。

上回った要因として、小学校では 28 年度から取り組んでいる陰山メソッド、中学校では 29、30 年度に受けた県指定の国語の学力向上専門監による授業改善が挙げられ、下回った要因としては、算数・数学では設問を理解する力、英語では文法を理解しての記述に課題があると捉えております。

4 点目につきましては、基礎的な内容の徹底反復や一層の授業改善に取り組むとともに家庭での学習時間の確保に努めてまいります。

また、英語では、今年度より県指定を受けた学力向上専門監による授業改善について、市内の 4 中学校で研究し、小中学校の教職員にその成果を広めてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。1番の、いわゆる前年度調査方法から一部変更と言いますけど、もっと詳しく教えていただけないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

お答えいたします。

前年度までは、A問題とB問題、知識問題と、それから活用問題というふうに用意されておりましたけれども、今回はA、Bというものがなくなりました。どの問題も活用というふうに考えているかということでございます。

また、中学校では英語が入りましたということで、それはそのとおりでございますし、設問のほうについては、とれた問題と、それから新たに加わった問題があります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

まず、小学校の学力のほうでお伺いしたいと思います。

昨年度と比べて、国語、算数の数値的にどんな状況でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

今ほどお話しさせていただきましたように、昨年度は、A、Bございましたけれども、今年度は活用になりましたので、B問題との比較、昨年度のB問題と今年度の問題との比較としますと、昨年度は、B問題で全国比でプラス2.3でございましたが、今年度は、国語はプラス5.2となっております。

算数のBについては、マイナス0.5でございましたが、このたびはマイナス1.6となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私、自分でAとBを平均して、それと比較してみたんですけど、Aのほうは昨年で62.7、Aじゃなくて30年度ですね。それに対して、国語のほうで今年度は64というふうに1.3ほど上がってるというふうに思います。勘違いいたしました、申しわけありません、訂正させてください。国語が62.7、ちょっとわからなかった、ごめんさない。昨年度よりかなりよくなっているというふうに思うんですけど、先ほど陰山メソッドとかいろんなことありましたけど、もう一度その点、よくなった要因として何が考えられると思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

国語についてよくなった点、まず1点目、毎年、NRTの標準学力テストと陰山メソッドと比較してる数値がございまして、28年度以降、わずかではありますが上向きになっております。したがって、その点について評価できるかと考えております。

それから、市のほうでも出しております授業改善のシートがございすけれども、その点についても広めておりますので、各校で確実に取り組んでいただいているというふうに思っております。その他学習支援員等の配置等の策もございすけれども、大きくさきに述べました2点があるかと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

中学校のほうについてお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

中学校の国語Bの比較になります。国語Bと本年度の国語の数値の比較をいたします。

国語Bにつきましては、昨年度マイナス2程度でした。今年度プラス2となっておりまして、その差はかなり上がってるかなというふうに考えております。

また、数学についての比較ですが、本年度もマイナス値だったわけですが、昨年度おおよそ6ポイント程度あったわけですが、今年度3.8となっておりまして、その点は評価できるかと考えております。

以上です。

失礼しました。英語については、昨年度、実施されておられません。本年度マイナス2程度となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

陰山メソッドが、もう始めて4年目ですかね、やはりこれも中学校のほうの上昇に影響あるというふうに考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

先ほどお答えしましたようにNRT等の比較から、効果についてはあるものと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

学力のほうは、確実に上がってきとるというふうに考えられると思います。いろんな面でかなり上昇してるんで、いい方向に向かっているかなというふうに理解しております。

次に、生活習慣や学習環境などに関する質問紙調査がありますが、これの中で、特に全国平均より大きいものについてお伺いしたいと思います。幾つかご紹介いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

お答えいたします。

質問紙の結果につきましては、小中学校とも地域にかかわる項目、それから話し合いや発表活動にかかわる項目が、全国比10以上として顕著としてお伝えすることができるかと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

小学校も中学校も今住んでいる地域の行事に参加していますか、全国に比べて22.3ポイント上というふうにありますが、これはやはり糸魚川で行っているいろんな、例えばコミュニティスクールであるとかいろんなことの要因だというふうに思います。そういうことが、いわゆる子供にも地域との連携を強くしてるんじゃないかというふうに考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

糸魚川の場合、学校、地域の結びつきは、非常に前から強いわけですが、一層、コミュニティスクール等の取り組みにもよって、さらに強くなっていると思いますし、あと子供たちもそのよう

に育ってると思います。地域への参加興味も高いのではないかと判断しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

小学校、中学校も、地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますかということに対しても、小学校で11.7、中学校で12.2と、いわゆる地域を考える子供が多くなってきとるなというふうに考えております。

実は、きのう市長のお膝元であります根小屋で奉納相撲がありました。それに根知の小学校が、もう学校を挙げて応援に来ると。実際には、大人の相撲の後に小学生の、いわゆる相撲大会をやらせる。実は、それに2代前の校長が、60近くになっても裸になりまして、青年の部に参加した。そういうことが、1つの伝統となって、ことしは実は校長先生は裸になっていただけなかったんですけど、男子の教員が3人全部裸になっていただいて、やはりそれを応援する子供、父兄の方、やはりこういうことが、いわゆる地域を考えるものに大きくつながってるというふうに考えるんですね。そういう面では、いわゆる地域と一緒にやってということが十分、むしろ本当にかなり必要ですし、そういうことがこういうものにつながってるかと思うんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

議員おっしゃいますように、子供が育つためには地域が盛り上がり、学校の職員の仕事についてもサポートされていく必要があると思います。ですので、どの行事についても全て参加というわけにはいかないかもしれませんが、お互いにやりくりをしながら子供を育てていく、その地域の結びつき、学校との地域の結びつきは、とても大切だと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

いわゆる地域の祭りに子供、中学生も高校生も参加するというのが、地域にもっと根づくようなことというふうに考えるんですけど、事実で、例えば根知の小学校あたりは、地域的に参加しやすいのかもしれませんが、でも、逆に糸魚川小学校だとかそこらあたりは、なかなかいろんな糸魚川小学校ですと例えば横町の祭り、上刈だ、いろいろ分かれてますね。そういうことじゃあ参加しにくいかもしれませんが、これ校長の判断だというふうに思うんですけど、教育委員会として、そこらから支援するようつもりはございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

根知小学校等の取り組みについては聞いておりますので、校長判断等で行われております。また、そういう取り組みがあった場合については、教育委員会としても何らの支援、できる場合についてはしていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

先ほども言いましたけど、規模の大きさによってなかなか難しい面もあるかと思うんですけど、ぜひともこういうような活動に地域を挙げてやるということが必要でないか、それがいわゆる地元愛につながっているというふうに思いますので、ぜひともそんなふうな方向で考えていただければと思いますし、校長に圧力をかけるという言い方ではないんですけど、やはり地域としてこれも教育の一環だというふうに考えてるというふうに言っていただければ、もっと参加が多くなるんじゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

今ほど根知小学校の例が申し上げられましたけども、例えば青海地域においても青海の竹のからかいという伝統行事に、小学校の児童が参加しているという事例がございます。

具体的に数字で少し申し上げさせていただきますと、地域の行事に参加していますかという小学生が90.3%、全国平均が68.0ということですので、20ポイント以上プラス。

また、中学生におきまして68.9ということで、全国平均が50.6ということで18.3ポイントも上ということで、その部分については、今後も継続するように各学校のほうにも働きかけをしてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

逆に、マイナスの部分はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

課題が顕著であった項目としまして、小学校マイナス10ポイント以下はございません。

中学校での家庭の学習時間については、マイナス10ポイント以下になりましたので、これは大きな課題かというふうには思っています。



〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3 番（山本 剛君）

なかなか家庭学習を上げるというのは、難しいことだと思うんですけど、その点何か改善策なんか考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

すぐに策を講じるということは、なかなか難しいことですが、糸魚川市が進めている生活リズムの改善であるとか、それから家庭での時間の使い方、この点について考えさせていく必要はあると思っております。

○議長（中村 実君）

質問の途中でありますが、あらかじめお諮りいたします。

質問時間が午後5時を過ぎることが予想されますことから、本日の会議時間を延長したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

ご異議なしと認めます。

よって、会議時間を延長することに決しました。

山本議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3 番（山本 剛君）

全国学力学習調査の結果を受けて、学力面では算数・数学、そして英語はまだ全国点には届かないものの、確実に上昇傾向と感じています。これは、陰山メソッドの影響が大きいと考えています。

実は、一部の父兄から、陰山メソッドに対する疑問の声も聞かれるのも事実であります。しかし、全ての施策、学習方法など完璧なものはないというふうに考えております。

先日、東小学校で行われた陰山メソッドの研修会で、陰山先生に質問をさせていただきました。陰山メソッドを進める上で必要なものは何か。先生は、電子黒板やオーバーヘッド、そしてプリントなどを入れる収納ボックスというふうなことを言っておりました。ぜひとも今年度または来年度の予算で、ぜひともこの2つの設備をお願いしたいというふうに思っております。

陰山先生は、ことし全国で糸魚川に来てくれたような講演を10回ほど行うということであり、そのうち3回が糸魚川を予定しとるというふうにも聞いております。先生の意気込みの大きさを感ぜられます。ぜひともその意気込みにかなうような設備も必要と思います。

また、先日のテレビで、小学校、中学校のWi-Fi設備についての放送がありました。しかし

10%を超える学校しか設置してないとのことであります。私は、このWi-Fi設備もぜひとも予算化をして、近いうちにお願いしたいというふうに思います。この設備で、先生の多忙化が和らぐのではないかとというふうにも考えております。ぜひともよろしくお願ひしたい。この点、市長にお伺ひしたいと思ひますけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まず、どういう経過があるのかというようなこともあろうかと思うわけでございまして、ただ、機械・器具だけではないと思ひておりまして、そういったどのような形を要するのかというものをしっかり見きわめていかなくてはいけないのではないかなと思ひております。そしてまた、我々はやはり、この学校の授業に向かつていく生徒の、やはり意識改革的なものが必要になってくるんだろうという形で陰山メソッドとともに取り組んでおる部分がございます。ですから、これからさらに進めていく上には、やはり今の調査の中にも上がっておりますように家庭教育をどのようにしていくか、そういうところをやはり一番大切になってくるのではないかなと思ひております。児童生徒の学習意欲を高めていくためにも、やはりその意識をしっかり持ていただくような環境をつくっていくことが大事だと思ひておりますので、それに資するものであれば、我々は取り組んでいきたいと思ひておりますので、その辺を検討させていただきたいと思ひております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私は感じるんですけど、陰山メソッドの中で音読というものがあります。それを実際にやるとみんな下を向いて、こうやって見ますね。実は下を向くと、やはり前向きな心がだんだん下向きになるんだと思うんです。やはりオーバーヘッドみたいに上にそういうことが書いてあれば、頭を上げて上を見る。それによって声も大きくなると思ひますし、それが自信につながると思ひます。ぜひともそこらあたりを、観点を考えていただいて、行っていただきたいというふうに思ひます。

次に、6月に行われた防災訓練の課題についてお伺ひいたします。

先ほどの答弁の中で、1時間当たり40ミリと400ミリというふうにお伺ひしたかと思ひます。実際には今、全国で本当に1,000ミリにも達するような雨というふうにありますけど、糸魚川でもそういうことが考えられないわけでもないんですけど、そこらあたり、もし1,000ミリが降ったら、糸魚川がどのような状況になるかというふうに考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

雨量観測所の警戒値につきましては、時間雨量４０ミリ、それから累積雨量１４０ミリでございます。それで、今ほどおっしゃいました１，０００ミリも降れば、もう市内至るところ甚大な災害が発生しているというふうに予測させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○３番（山本 剛君）

私も７０年生きる中で、やはり７・１１が最大の水害であったように思います。ぜひともというより、本当に１，０００ミリを超えるような雨が降らないことを願っております。

その７・１１災害のとき、私も須沢で堤防まで行ってみました。１メートルぐらい下だったかな、水が流れておりました。あのときは姫川の水崎の一部が損壊したと思います。実際にそれ以上の雨が降れば、本当に洪水、いわゆる氾濫して、市内の低地にみんな水が流れるのかな。でもそうはなかなかないことを願ってます。

でもそれに達しなくても、やはりかなりの水害のときに地崩れだとか、いわゆるそういうふうなものがあるかと思いますが、やはり先ほどの九州の災害でも０．６％しか避難しなかったというふうにありますけど、これは避難所に来た数だと思うんですね。実際には、皆さん自主避難で高台に逃げたとかそういうふうな感じだと思います。そういう面では、自主避難というものを重きを置かなきゃいけないんじゃないかな。本当に自分のうちが、崖崩れで潰れそうだとか、床上浸水になるという方が、本当の意味で避難所へ来るんならいいんですけど、逆に何でもない高台の人が来て、避難所を満杯にするというのもいかなものかと思いますが、その点どのように考えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

私も九州の報道を見させていただきました。鹿児島市のほうで検証した結果、避難所になかなか避難しなかった。それからわざわざ近いところに逃げずに遠いところの避難所に行ったら、満杯で入れなかったということもあります。やはり市民が、まず避難所、それからとりあえず身の危険を避ける緊急の避難場所と混同があると思います。早い段階で避難できれば、皆さん避難所に避難していただければよろしいかと思うんですけども、切迫した状態であれば、近くの緊急避難場所、それから地区で定めております一時避難所、あるいは知り合いのところということは大変有効だと思いますので、そういったことをこれからはＰＲしていかなくちゃいけないと思います。そうすることによって、一部の避難所に人が集中するということも防げるのではないかと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○３番（山本 剛君）

私も須沢の比較的高台、高台ではないんですけど本当に洪水になったときにゼロから50センチ程度の水だろうというふうにはハザードマップにあるところには住んでるんですけど、家内とよう話はするんですけど、姫川が氾濫したときは、さてどうするかという話をよくしたりもします。でもそれ以外の、例えば本当に警報が出てもなかなか避難はしないんだろうな。これ一般的なものの感覚ではないかと思いますね。そういう面では、本当にそういう300ミリ、400ミリ、それぐらいの雨が降ったときには、本当に裏山が崩れる。自分のうちが崖の上にあって崩れる。やはりそういう方を中心に避難が必要だと思います。そこらあたりは、消防のほうは把握して、個々に避難をメールすることもあるかと思うんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

消防のほうでは、雨量につきましては、常に情報を収集しておりますし、県の土木部の土砂災害警戒情報ですとか、それから気象台のホームページ、それから気象台からは危険が迫ってきますと直接電話も来るようになっております。そういったものを見ながら、当然もう300ミリという状態になれば、既に気象台、それから土木部が共同で発表する土砂災害警戒情報がもう発令された状態だと思われま。その状態では、もう避難勧告なり避難指示を出しておりますし、その土砂災害警戒区域については、重点的な広報等を行って、安全対策をとっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

実際にそういうのになったときに市内の介護所なんかでは、もう本当に事前に避難するというふうにも聞いているんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

一つの例としまして、市内のある社会福祉法人、福祉施設を幾つか持っておられる法人なんですけども、施設が土砂災害警戒区域内にある施設がございますが、雨が降りますと、それを自分たちで状況を把握しながら自主的にもう市からのそういった避難情報とか出る前に、自主的にもうほかの施設に入所者を避難させるという取り組みをやっているところはあります。そういったみずから気象情報等を見ながら、自主避難するということは大変いいことですので、そういったことをほかの施設にも紹介したり、また一般の市民へも紹介していきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

糸魚川の火災のときも、避難所が設置されたと思うんですけど、もう数日のうちに糸魚川の場合には皆さん、知り合いだとかあちらに避難になって、閉所になったと思うんですね。そういう糸魚川はそういう地域柄があると思いますので、ぜひとも自主避難、そしていわゆる身内避難といえますか事前避難、もう雨が降る前に、逆に言うと予想して避難する。そしてそれも公が設置する避難所ではなくて自分の知り合いだとか親戚に避難する。やはりこういうほうに持っていくことが、一番私は重要だというふうに思うんですけど、その点改めてまたお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

おっしゃられる身内避難というのは、大変有効な避難だと思います。気楽な環境の中で過ごせるという意味では、避難者にとってもいいところだと思います。

ただ、家から遠ければ早目に避難していただかなくちゃいけない。ですから早目に、自主的に気象情報等を見ながら判断していただくことが大事だと思います。

それで、私どもも出前講座でお話をするときには、避難というのは避難所へ行くことだけではなくて、そういった身内、知り合いのところへ行くことも避難ですと。そういうような話をさせていただいております。その際には、地域のいざ災害に遭ったときに、地域の方が避難していつてるかどうかに見られて、被災してしまえば困りますので、避難する際には、消防本部なり市役所、あるいは近隣の方に知らせてくださいというお話をしてるんですけども、我々が発行しているハンドブック等には、身内避難については実は書いてございません。そこら辺の周知が、今までちょっと不十分だったなと思っておりますので、今後は、身内避難も有効な避難なんだということも含めまして避難方法の啓発等を進めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。本当に身内避難が、私一番最初の有効な手段だというふうに思いますので、ぜひともこの方向で向かっていっていただければというふうに思います。

昨年の6月に避難訓練が実施をされました。年々、参加者がふえてきているものと思います。災害に対する市民の意識も上がってきているものと思います。

しかし、避難指示前にもう移動を開始してるなど、指摘事項もあります。訓練が形式化しているようにも感じざるを得ません。

先日の村上の地震で、津波警報が発令、高台の方が低地にある公民館に避難をしてきたというような報道もあります。避難というと避難所に行くことと勘違いしている市民もいることを感じざるを得ません。そのことを考えると、いろいろと問題点があるように思えてなりません。

また、昨今の異常気象、異常気象というより地球温暖化で、もう通常の気象と言えるようにさえ

思えます。そして、全国どこでも降雨による水害が予想されます。降雨による災害を防ぐには、それなりきの設備が必要でしょう。しかし、国も県も含め、財政難では堤防を高くするとかいろいろなことをやるだけの予算もありませんと思われます。

そこで、災害を予測した早目の避難が重要と考えます。今まで申してきた事前避難、身内避難を行政として真剣に考えなければならない時代と考えております。ぜひともその方向でお願いしたいと思います。

市は、ハザードマップを作成して、各家に配付しております。しかし、これだけでいいのでしょうか。

前日の糸魚川高校の防災の教育の中でも、高校生はハザードマップを見ていないという実態が明らかになっております。ぜひとも、いわゆる全市民が少なからずハザードマップを見て、理解できる人が、やはりもう一度見直すような、そういう啓発もよろしくお願いしたいと思います。水害が発生しても、被害者を出さない避難方法をつくり上げなければというふうに考えております。行政が中心となって市民意識の向上に努力、必要と切に感じております。その点よろしくお願いしたいというふうに思います。

最後に、先日の台風で千葉県がまだ停電が続いております。昨年の１２月に電力のことで、私は質問させていただきました。まさに懸念することが関東の、いわゆる千葉を中心としたところで起きております。糸魚川でも、この電力について、私が１２月に提言したことも再検討していただきたいというふうに思います。

これで私の質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後５時１２分 延会〉